

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月14日

学校法人 宝国学園 真教寺宝国幼稚園

1. 本園の教育目標

一人ひとりの今が輝く保育

- ・みほとけさまを拝む子ども
- ・お話を聞ける子ども
- ・ありがとうと言える子ども
- ・仲良くできる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

・子どもの心情に寄り添い、主体的な学びにつなぐ保育を目指す。

{重点課題}

・自ら考えてやろうとする力に重点をおいた指導（物的環境、人的環境、時間的環境を整える）

・季節や年齢や発達、興味関心に応じた教材の工夫と、遊びがグループやクラス全体に発展していく指導

・異年齢保育活動の充実。特に外遊びでのわらべ歌や鬼ごっこなどルールのある遊びを子どもたちで展開する姿を期待する。外で自ら全身を使い遊ぶことが基礎体力、運動能力の発達を促す。

3. 評価項目の達成及び、取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもの主体性を育む 保育・環境の計画をたてる。	A	今年の重点課題から運動遊びを多く取り入れた。自ら選び遊べるように体育ローテーションを設定した。また室内遊びでもコーナーを充実した。
2	異年齢保育を充実させる。	B	朝の自由遊びの時間を使って異年齢グループでの活動や遊びを展開した。時期ごとに遊びのテーマを作ったので遊びの深まりがみられた。
3	研究保育を充実し、子ども理解について研修をする。	B	各クラスで研究保育をおこない、職員間で研修・反省をおこなった。また定期的にクラスの様子共有や子ども理解のための話し合いの場を持てた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果なかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	職員間の話し合いや共有連携は十分にできていると思う。年間を通しての保育の計画や具体的な子どもの姿を捉えて計画を立てる必要があるように感じる。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育実践	わらべ歌遊びや体育ローテーションを通して身体を使った遊びを取り入れてきた。来年度も継続的なあそびにしたい。また津田公園を使って自然の中での自ら考えた遊びを深めたい。
2	異年齢保育	午前中の外遊びや午後からの時間を使い異年齢での関わりを増やしていきたい。
3	ICT化	保護者との連絡や職員間の連携にICTを取り入れる。R5年4月より園児管理システムにアプリを保護者にも利用していただき効率化を図る

6. 学校関係者評価委員会の評価

子どもたちの気持ちに寄り添いながら、主体性を重視した保育をされていると思います。また、保護者からの意見や要望にも耳を傾けて下さるので、色々な事と相談できる環境だと感じています。

コロナ禍の中、今できる最善の方法を考えて、色々な行事を開催して下さいました事もとても感謝しています。

父母の会 会長